２０２２年度（令和４年度）学校評価自己評価表

広瀬学園中学校区	校番　84 138	福山市立広瀬学園小・中学校
	最終更新日	2023年（令和５年）２月９日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

学校が進めている取組内容について，概ね肯定的な評価をいただいた。
本年度から特認校として開校するが，児童生徒のために取組を進めていくことを期待されている。

児童生徒の現状

元々中学校区に在住する児童生徒は「０」となり，学校に隣接する児童養護施設から通学する児童生徒や，他の校区から通学する児童生徒が増加している。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	「基礎的な知識・技能」「課題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	「自立」夢や目標に向かって見通しをもちねばり強く行動できる姿 「共生」友達の良さを認め課題解決にむけて共に取り組む姿
中学校区として統一した取組等	小中合同行事を効果的に仕組み，異年齢交流や大人数での活動を行い，児童生徒の「やればできる」「やってよかった」と感じる体験を積ませ，自己肯定感を高める。

Ⅲ　自　校

ミッション

９年間の多様な学習活動を通して，一人一人の成長を大切にし，「自立」と「共生」ができる人材を育成する

学校教育目標

心豊かで　主体的に学び　たくましく生きる子どもの育成

現　状

＜児童生徒＞
様々な背景をもった児童生徒や不登校傾向，大人数の集団に馴染めない等から，少人数の環境に期待を寄せられて転入学する児童生徒が多く在籍している。そのため，学力の定着に差が見られ，自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり，自己肯定感が低い児童生徒が多い。
＜授業＞
小学校では，児童が主体的に授業に進める授業形態の取組や異年齢での「教える」「教わる」関わりを大切に取り組んでいる。
中学校では，基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために，具体物を使ったり，個に応じた指導に取り組んだりしている。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		①「基礎的な知識・技能」②「課題発見・解決能力」③「コミュニケーション能力」
めざす子ども像	①	＜小１～小４＞基礎的な知識・技能を身に付け，友達と共有し，自分なりの考えを表現することができる。 ＜小５～中１＞基礎的な知識・技能を着実に身に付け，仲間や友達と共有し，自分なりの考えを表現しながら，生活や他教科と関連付けて使うことができる。 ＜中２～中３＞基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら，他者と協働し目的に応じた解決策を導き出すことができる。
	②	＜小１～小４＞学びたいことややってみたいことを見つけて，実際に活動したり考えたりすることができる。 ＜小５～中１＞自ら課題を発見し，見通しをもって解決方法や学習経計画を考えて，よりよい方法で実行することができる。 ＜中２～中３＞物事を多面的に見たり，経験や知識を活用したりする中で，新たな課題を発見し，よりよい　解決方法を選択することで，目的に応じた解決策を導き出すことができる。
	③	＜小１～小４＞目的や立場を理解して，他者と協力して活動することができる。 ＜小５～中１＞多様な他者と互いに考えを認め合いながら，協働することができる。 ＜中２～中３＞多様な他者と協働することで，新たな考えを創造し，適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。
研究	テーマ	個別最適な学びをめざした授業づくり ～　教科・学年の枠を超えた学びのデザインを通して　～
	内容等	○教科・学年の枠を超え，異学年集団での関わりを生かした学び ○指導の個別化・学習の個性化をデザインした単元計画 ○ICT の活用を通して学習履歴等を用いたきめ細かい指導・支援による個別最適な学びの推進
めざす授業の姿		○「なぜ，どうして？」「教えて！」「わかった，できた！」「もっとやりたい！」などの声のする授業 ○課題に向けて解決への手だてや方法を選択したり，個々の理解度に合った学び方をデザインしたりして，自分の考えを深めていく授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立広瀬学園小・中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自分の課題解決に向けて，主体的に学び，個々の学力を定着させる。	★	新規	①児童生徒に基礎的・基本的技能を活用させ，個々の学力を伸ばす。	○個々の学習の目標を設定したり，個人やグループ等で学び合ったりしながら，自分に合った学習方法で取り組ませる。	○児童生徒アンケート「自己の成長が実感できた」「授業で考えることは面白い」等の肯定的評価80%以上	アンケートより ○「授業での学びが自己の成長に生かされている」(小91.7%　中70.3%) ○「授業で考えることが面白いと感じている」（小66.6%　中59.2%）	３	２	○個別のサポート計画をもとに，個に応じた課題を児童生徒とともに設定するとともに，自分に合った方法で取り組むことができるようにする。 ○授業の中で個人思考を深める時間と，仲間と学び合う時間を効果的に設ける。	アンケートより ○「授業での学びが自己の成長に生かされている」(小85.3%　中89.3%) ○「授業で考えることが面白いと感じている」（小64.7%　中67.9%） ◎個別のサポート計画をもとに，個に応じた課題に取り組み，学力向上を図った。教科学習は，個別学習が中心となり，仲間と学びあう活動が不十分である。	３	３	３	□個別最適な学びづくりの視点から，少人数授業の在り方について，授業研究等を通して研修し，授業改善を図る。 □広瀬タイム等の体験的な学習と教科学習のつながりを明確にした授業づくりを行っていく。 □個別のサポート計画について，担任のみならず，複数職員でかかわりながらアセスメント力を高め，個に応じた学びを進めていく。 □個別面談のもと，学習計画を作成し，進捗状況についても丁寧に見取る。
1	広瀬タイムを通して，自己選択・決定をすることができる。	★	新規	②広瀬タイムで，課題解決に向けて協働し，互いを認め合いながら学び，肯定的な評価ができる。	○広瀬タイムでの課題をSDGｓと関連付けてとらえ，課題発見・解決学習を進める。	○児童生徒アンケート「自分の考えは認められている」「SDGs達成に貢献している」等の肯定的評価80%以上	アンケートより 「自分の考えは認められている」(小83.3%　中70.3%) 「広瀬タイムでSDGsに向けた学習をしている」(小72.2%　中40.8%)	３	２	○考えたことを自分なりの表現で発表するとともに，広瀬タイムの取組を地域に向けて発信し，見える形で貢献する。 ○広瀬タイムの中身を再度検討し，SDGsを絡めた内容に修正する。	アンケートより 「自分の考えは認められている」(小82.4%　中96.4%) 「広瀬タイムでSDGsに向けた学習をしている」(小90.9%　中67.9%) ◎広瀬青空フェスティバルを開催し，学習の成果を発表したことで，多くの地域の方から肯定的な評価をいただいた。	３	３	３	□広瀬タイムの意義をについて教職員間で共通認識をして，社会生活につなげるカリキュラムを構築する。 □次年度，「広瀬キャンプ場」をテーマとして，課題発見，探究活動を行う。その際，地域の方をゲストティーチャーとして招き，地域の素材を生かした学びとしていく。 □年間を通して「個人探究」の時間を設定し，個の興味関心に応じたテーマを粘り強く探究し，インプットとアウトプットする力を育てる。

1	地域・保護者から信頼される学校教育を推進する。	★	新規	③地域，保護者へ積極的に学校情報を発信する。	○様々な機会を通して地域・保護者との情報発信（各種便り・ＨＰ等）を積極的に行う。	○保護者学校満足度85%以上	アンケートより ○「学校に満足している」 （小 97.4%　中93.9%） ○「生徒の様子は通信やHP等によって知ることができている」（小97.3%　中90.9%）	３	３	○今後も学校からの情報を在籍家庭のみならず市内外に発信するとともに，保護者・地域との良好な関係を構築していく。	□アンケートより ○「学校に満足している」 (小100% 中96.7%) ○「生徒の様子は通信やHP等によって知ることができている」(小100%　中90%) ←保護者の満足度は高水準 ◎保護者や関連の地域住民には定期的に情報発信はできてはいるが，地域全体への情報発信，公開は不十分な点がある。	４	４	４	□来年度のコミュニティスクール導入に向け，学校での様子を通信とＨＰなどでの発信をよりこまめに続ける。 □「地域と共につくる学校」を前提に，地域全体への呼びかけ，ゲストティーチャーへの依頼なども含め，「子どもの学びと地域の願いをつなげる」視点で，日々の取組や情報発信・公開を続ける。
1	働き方改革の意義を理解し，自ら実践することができる。	★	新規	④業務内容を精選しながら質を高め，年間を通して計画的に業務を遂行する力を付ける。	○定時退校日を厳守するとともに，見通しをもった業務管理を進める。	○時間外勤務時間，月45時間を超える職員ゼロ	在校等時間記録表より，時間外勤務時間が月 45 時間を超えた教職員(延べ 小-0 人，中-3 人)	３	３	○自分の担当職務への意識や個に合った時間の使い方などへの意識を高めることで，メリハリの効いた業務遂行を行い，働き方改革を充実させる。	□時間外勤務時間月45時間を超える職員はほぼいない （出現率 小-0%《延べ人数０人》，中-6%《延べ人数６人》） ◎働き方改革の中で，業務の精選，仕事のスマート化は行ってきたが，子どもの学びの質の向上を並行して行う必要がある。	３	３	３	□引き続き，子どもの学びの充実に向け，働き方改革を加速させ，業務の量的な軽減のみならず，質的向上を図る。 □業務の本質についての教職員の議論の場を増やすことで，各業務の担当者の「自分事」意識を高める。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。